

地域の魅力にせまるメディアの創出 —語る・つながる「きたまちプリズム」—

未来の社会教育士チーム（天理大学）
東 拓実、荒木 涼介、田辺 七海

01 まちの魅力は、人の魅力

私たちは、地域の魅力そのものを大切にしながら、その価値に私たちを出会わせてくれる「人」の存在に注目しました。

奈良きたまちに折り重なる残る歴史の跡も、ほっとする懐かしい町並みも、歩いて初めて得られる発見や驚きも、その全てが**私たちにきたまちを案内してくれた人たちの魅力、まちで出会った人たちの魅力、まちで活動している人たちの魅力**とともにある記憶となりました。

02 人とまちの「つながり」を支えたい

しかし、このきたまちも、少子高齢化や世帯構成の変化、特に最近は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて地蔵盆をはじめとする地域行事の縮小、スーパーの撤退、幼稚園・学校の統廃合といった社会的な変化が生じていることを知りました。その結果、暮らしの中の交流の場や機会が減ってきています。

今、このような状況だからこそ、あらためて「人」の存在にしっかり光を当てて**地域の魅力にせまり、それを表現することで地域のつながりを支えていくことはできないだろうか**。私たちは、そう考えるに至りました。

03 インタビューでみえてきた！まちの魅力は「十人十色」

まず、私たちは奈良きたまちにかかわる皆さんの人生物語（ライフストーリー）をインタビューし、そこから地域の魅力にせまろうと考えました。

地元住民、移住者、まちづくり団体、行政職員、同じきたまちの中で生まれる色とりどりの人生物語。一人ひとり全く違った「十人十色」のストーリーが生まれ、交差し、このきたまちの魅力となっていく。私たちにとって、きたまちはもっと身近で、もっと温かく、もっとおもしろい何かが生まれる地域に感じられるようになりました。

同時に、私たちはインタビューを通じて、**地域の魅力は「語り手と聴き手の共同作業」を通じて表現されること**にも気づきました。



04 きたまちプリズムの構想

ここまでのフィールドワークやインタビュー調査を踏まえ、「①さまざまな人生物語からみえてくる、さまざまなきたまちの魅力をみんなで探り、共有すること」、そして、「②それを通じてきたまちに暮らす人／かかわる人のつながりをもっと深め、もっと広げること」を目的として、私たちは**地域と人をつなぐ「きたまちプリズム」**というメディアを創出するという提案をまとめました。その概要は以下の通りです。目的の実現に向けて、まだまだ準備と検討を重ねていきます。今回ご協力いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

きたまち瓦版

- きたまちに暮らしている方を大学生が取材し、人生物語と地域の魅力を“ちよこっただけ”紹介する。
- 毎月発行（A4印刷）。下半分に一言コメントを書けるフリースペースを用意し、地域内のゆるやかな交流のきっかけをつくる。



きたまち人チャンネル

- きたまちで活動しているゲストを招き、きたまちと人生物語（これまで・今・これから）を聞く15分番組。MCや編集を大学生で担当。
- 毎月1本収録、ネット配信（YouTubeチャンネル）。きたまちのイベントや各団体の活動との連携も図る。



edit 輝多まち

- きたまちプリズムの編集会議を兼ねた交流スペース開放。月に1回、金曜日の夕方から大学生が運営。
- 瓦版やチャンネルの打ち合わせをしつつ、ゲストを呼んで交流したり、まちづくりを学んだり、困りごとを持ち込んで共有したり…。

